

平成21年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

全国各地で深刻な医師不足・偏在を来たし、勤務医の過重労働が社会問題化する中、志し半ばにして病院から若手・中堅医師が立ち去るなど、今や医療は崩壊寸前と化している。そんな中であっても、ますます高度・専門分化する医療を支えるのは、低医療費で過重労働に耐えながら日々診療に励む「勤務医」である。

医療安全対策、医師不足と過重労働、研修医の指導や自らの生涯教育のあり方など、勤務医を取り巻く問題は多岐に渡っている。いずれの問題もこのままでは放置できない状況となってきたが、勤務医部会としては、この危機的状況を乗り切るためにも、勤務医部会を活動拠点として、種々の問題解決に向け積極的に取り組んできた。今後も一人でも多くの勤務医に医師会入会を訴え、開業医と勤務医とが一致団結し、叡智を結集することで、これら諸問題の解決に努力していきたい。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来26年を迎えた。平成22年1月1日現在の部会員数は、1,695名で昨年より4名の減で、京都府医師会総会員数中、40.3%を勤務医部会員が占めている。部会発足時よりおおよそ倍増しているすが、ここ数年はほぼ横ばいの状態が続いており、京都府内に従事する勤務医の約3分の2が医師会に未加入であることを考えると、依然、組織率が低迷していると言わざるを得ない。

〈表1〉過去5年間の勤務医部会員数の推移

年度	勤務医部会員	京都府医師会総会員数	%
平成22年	1,695名	4,206名	40.3%
平成21年	1,699名	4,210名	40.3%
平成20年	1,739名	4,247名	40.9%
平成19年	1,718名	4,222名	40.7%
平成18年	1,739名	4,245名	41.0%

※基準日：1月1日現在

3. 部会役員に関する件

森勤務医部会長のもと、幹事長に内藤和世氏、副幹事長に日下部虎夫氏、河野義雄氏、薄井裕治氏、山田典子氏にご就任いただいた。平成20・21年度の役員は次頁のとおり。なお、任期は平成22年3月31日まで。

役 職	氏 名	勤 務 先
部 会 長	森 洋 一	森小児科医院 院長
幹 事 長	内 藤 和 世	府立与謝の海病院 院長
副幹事長	日下部 虎 夫	京都第二赤十字病院 副院長
〃	薄 井 裕 治	武田病院 副院長
〃	河 野 義 雄	京都第一赤十字病院 副院長
〃	山 田 典 子	京都市南保健所 所長
幹 事	安 田 健治朗	京都第二赤十字病院 消化器科部長
〃	白 方 秀 二	社会保険京都病院 血管外科・末梢血管治療センター長
〃	新 谷 弘 幸	京都市立病院 診療科統括部長
〃	森 一 樹	京都市立病院 救急科部長
〃	吉 岡 秀 幸	京都逄信病院 第二内科部長
〃	二 宮 清	洛和会丸太町病院 院長
〃	宮 崎 忠 芳	京都工場保健会診療所 副所長
〃	清 水 聡	京都南病院 理事長・院長
〃	齋 藤 信 雄	NTT 西日本京都病院 院長
〃	北 堅 吉	日本バプテスト病院 院長
〃	森 村 達 夫	国立病院機構宇多野病院 統括診療部長
〃	若 園 吉 裕	京都桂病院 副院長
〃	水 野 雅 博	三菱京都病院 副院長
〃	湯 山 令 輔	洛西ニュータウン病院 循環器科部長
〃	山 添 勝 一	京都第一赤十字病院 整形外科部長
〃	閑 啓太郎	愛生会山科病院 副院長
〃	閑 本 達 之	洛和会音羽病院 副院長
〃	近 藤 撰 子	洛和会音羽病院 皮膚科部長
〃	橋 本 哲 男	医仁会武田総合病院 副院長
〃	秋 山 祐 一	国立病院機構京都医療センター 地域医療部長
〃	北 村 浩 二	済生会京都府病院 副院長
〃	門 田 一 宣	宇治武田病院 副院長
〃	蔭 山 典 男	宇治病院 副院長
〃	紀 田 康 雄	第二岡本総合病院 副院長
〃	新 井 正 弘	公立山城病院 内科系診療部長
〃	塚 本 賢 治	公立南丹病院 副院長
〃	太 田 努	市立福知山市民病院 診療部長
〃	布 施 春 樹	舞鶴共済病院 診療部長
〃	西 田 和 夫	舞鶴赤十字病院 副院長
〃	福 田 和 彦	京都大学医学部附属病院 教授
〃	小 川 修	京都大学医学部附属病院 教授
〃	藤 原 郁 也	京都府立医科大学 科長

4. 幹事会・正副幹事長会の開催

21年度は3回の幹事会と2回の正副幹事長会を開催し、今年度の事業内容を検討するとともに、勤務医の入会促進、勤務医・女性医師アンケート、総会の運営について協議した。

開催日	会合名	協議事項
2009. 5.16	幹事会	(1) 平成21年度事業計画 (2) 平成21年度勤務医部会総会の運営 (3) 「勤務医通信」への執筆 (4) 「勤務医・女性医師アンケート調査」集計結果
2009. 8.29	正副幹事長会	(1) 「勤務医・女性医師アンケート調査」集計結果 (2) 「提言」の策定 (3) 平成21年度勤務医部会総会の運営
2009.10. 3	幹事会	(1) 平成21年度勤務医部会総会の運営 (2) 「勤務医通信」への執筆 (3) 「提言」の策定
2009.12.11	正副幹事長会	(1) 「提言」の策定
2010. 1.23	幹事会	(1) 平成21年度勤務医部会総会の運営 (2) 「提言」の策定

5. 府医各種委員会委員等への推薦

今期、勤務医部会から府医各種委員会の委員として下記3委員会に3名の幹事を推薦し、各委員会にて勤務医の意見が反映されるよう意見具申していただいた。

- 医業経済・融資幹旋委員会 新谷 弘幸 幹事
- 広報・情報・企画委員会 紀田 康雄 幹事
- 学術・生涯教育委員会 河野 義雄 副幹事長

また、勤務医部会会員数が府医会員総数の40%以上を占める中で、府医代議員107名中、勤務医の代議員数は3名、京都大学および京都府立医大の計4名を加えても計7名と、その比率は6%であり、勤務医の意見が府医の会務執行に届きにくい状況といえ、この点は今後の課題と言える。

6. 京都府医師会への入会促進

京都府医師会入会促進事業の一環として、勤務医向けの入会パンフレットを作成し、各方面で配付した。

7. 乳がん検診などへの出務医師の派遣

地域医療活動として、京都府医師会乳がん検診委員会との合議のもと、出務医師の派遣を行った。

8. 第35回京都医学会への演題発表

学術関係では、2009年9月27日（日）に開催された第35回京都医学会に勤務医より演題発表を行い、医学会を盛り上げた。

9. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として執筆いただいた。

10. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

2009年11月28日（土）、鳥根県松江市で開催された平成21年度全国医師会勤務医部会連絡協議会（鳥根県医師会主管）に内藤幹事長および担当理事、事務局が参加した。協議会のメインテーマは「今こそ目指そう 医療崩壊から医療再生へ」で、深刻な医療崩壊の現状を一刻も早く改善し、魅力ある職場を取り戻し、明るい明日の医療を築くため、勤務医を取り巻く諸問題について、さまざまな角度から議論された。なお、協議会当日には「鳥根宣言」が採択された。

鳥 根 宣 言

この度、政権交代が実現したが、新政権の今後の医療福祉政策は未だ不明である。これまでの医療制度改革により、地方では地域の基幹病院ですら医師不足が進行し、勤務医に対する負担が増大し、地域医療の崩壊が目前に迫っている。

従って、勤務医に対する施策が緊急に必要であり、我々は次のことを宣言する。

- 一、今までの医療費抑制政策を転換し、医療福祉への予算の増額を行うことを求める。
- 一、OECD 平均水準になるまで医師の増員を行うことを求める。
- 一、これから増えてくる女性医師が働き続けられるような支援体制の整備を求める。
- 一、勤務医の待遇改善をはかり、勤務医を増やすことによって、地域医療を存続させることを求める。
- 一、大学病院と地域医療を担う病院、診療所等が連携し、良き地域医療医を育てる。
- 一、地域住民との十分な相互理解のもとに、安全で安心な医療を提供する。

平成21年11月28日

全国医師会勤務医部会連絡協議会・鳥根

11. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会への参加

2009年12月4日（金）、日本医師会館で平成21年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が開催され、担当理事と事務局が参加した。協議会では「医療再生へ進むべき道」をメインテーマに、神奈川・山口・福岡の各府県医師会より勤務医活動報告が行われた。

12. 勤務医・女性医師の勤務環境に関する緊急意識調査の実施

勤務医を取り巻く昨今の厳しい医療情勢を勘案し、勤務医部会では2008年12月に「勤務医・女性医師の勤務環境に関する緊急意識調査」を実施した。前述のとおり、全国各地で医師不足・偏在が顕在化し、また勤務医の過重労働、訴訟リスクの増加など、まさに勤務医を取り巻く環境は悪化の一途をたどっている。そこで、京都府内に立地する医療施設に勤務する医師の現在の勤務環境等についての現状を把握することで、サイレントマジョリティといわれる勤務医の意見を吸い上げるべく、また、女性医師の就業環境の改善による「女性医師の就業促進」が今後の医療提供体制における重要課題であるとの観点から、女性医師が抱える固有の問題点や本音を把握し、「女性医師が勤務を持続することができる労働環境とは何か」などについて女性医師の立場でのニーズを探るべく、標記調査を実施した。

今年度、その集計結果がまとまったので、総会の場にて報告する。